

第4回 港南区協働による地域づくり推進協議会 開催概要

- [日 時] 平成27年2月17日(火) 午後3時から
[場 所] 港南区役所別棟 201・202 号会議室
[出席者] 藤田会長、五十嵐副会長、福山委員、嶋田委員、大友委員、守分委員、
齊藤委員、＜代理出席＞ 金剛氏(高柳委員)、穂永氏(二河委員)
＜欠 席 者＞ 長副会長、加藤委員、小野寺委員

● 第3回協議会の会議録の確認

修正箇所:「民生委員」を「民生委員児童委員」に、「見守り活動」を「見守り活動等」に修正

● 議事1「平成27年度の取組について」

(1) 元気な地域づくり推進フォーラムについて(事務局からの資料説明)

◆ 来年度の協働による地域づくりのテーマ

①防災・減災、②見守り・支えあい、③地域の魅力づくりと担い手確保、④健康づくり

◆ 地域でつながりを強めるための取組方針

26年度を継承し、「第3期港南区地域福祉保健計画(地区別計画)の策定を通じて、地域のこれからをみんなで考え、より良くする活動を進めます」の文言を追加。

◆ フォーラム当日、当協議会の構成団体のPRコーナーを設ける

パネルの展示やリーフレットの配布など。

◆ 各団体構成員への参加依頼

2月の地区会長会などで参加の呼びかけを依頼。

(2) 委員による意見交換

齊藤委員(港南区長)

「つながり はぐくむ ふるさと港南」をテーマに、引き続き、地域の皆さまと協働で進めていきます。来年度も、いざという時にも支えあい・助け合える「安全・安心のまちづくり」、様々な団体が連携して健康寿命を延ばすことで、「超高齢社会の中でも一人ひとりが元気に暮らせるまちづくり」、より身近な場所で安心して子育てができるよう地域での総合的な子育て支援を進める「子ども・青少年が健やかに育つまちづくり」、街の美化に総合的に取り組みつながりづくりや地域への愛着を深め「住み続けたいまちづくり」を基本としていきます。

藤田会長(区連会長)

まだ正式に区連会で協議はしていませんが、来年度に向け、取り組んでいきたいと、現段階で個人的に考えていることは、

- ① 各種団体の代表が地区定例会への参加
- ② 地区別地域福祉保健計画策定をテーマとした地区別意見交換会の実施

- ③ てんぷら油の回収など地域でできる温暖化対策の実施。
- ④ 定例的な区連会がない8月と12月に地区連合町内会長間での意見交換会の実施
- ⑤ 地区社会福祉協議会との連携強化 など

嶋田委員

健康づくりのためのウォーキングをどう進めていくか。また、ラジオ体操の普及についてどう展開していくかを詰めていきたい。これまで進めてきた「グラウンドゴルフ」や「ファジーバレーボール」についても、さらに普及させていきたい。

大きな課題として、全国最低となっている小中学生の体力向上がある。それには、学校との連携が重要。現在、ファジーバレーボールを週2回学校で指導しているが、そこで、あわせてラジオ体操を教え、喜ばれている。こうした活動を通じて具体的に体力向上を推進していきたい。

藤田会長

ラジオ体操などは、連合やほかの団体と連携しながらできるのではないかな。

守分委員

災害時に役立つ献立という意味合いで、乾物など各家庭でストックしているものが利用できることを周知していく。普段利用している食材を使うことで、無理なく防災対策ができることを地域に広げていきたい。

また、小学校を回り、食育教室を実施している。高齢者対応も大切だが、小学生や未就学児の食育など子どもたちに対する活動も充実させたい。家庭や地域でできる普及啓発活動を区役所と相談しながら推進していきたい。

藤田会長

災害時の食事の講習は地域防災拠点訓練などで実施するのも効果的。

また、学校との連携は、世代間交流にもつながる可能性がある。

五十嵐副会長

見守り活動を地域と連携して進めている。個人情報の問題があるので、マップ作りなど本人の了解を得ながら推進していく必要がある。民生委員児童委員のみでは無理なので、皆さんと協力して推進していきたい。

健康づくりについて、支援が必要な人にはどうすべきかが課題。現在は、保健活動推進員や地域ケアプラザなどと連携して推進している。座ったままでできる「ハマちゃん体操」は有効だと思う。

子どもや青少年については、虐待の問題が大きい。減らすためには地域での見守りの目が必要。切れ目のない子育てで支援という点で、放課後保育がうまくいく方策を検討する必要がある。

安心して子育てできる地域づくりを進めることで、ずっと暮らし続けたいまちが実現できると考えている。

藤田会長

民生委員を取り巻く環境が制度創設当時と大きく変化している。従来の活動が難しくなっており、今後、自治会との連携が鍵となる。個人情報の問題はありますが、自治会と民生委員とが具体的にどう連

携していくかの仕組みづくりを検討する必要がある。また、民生委員の数についても場合によっては増やすことも考えないといけないのかもしれない。

福山委員

先日のコラボレーションフォーラムに参加した。各団体とも地域で活動している。各団体が互いに結びつくことで、つながりが広がる。また、つながりが深まっていくことで地域に根付いていくのではないかと思う。しかし、各団体の代表者を含め、既存の団体で活動している人の参加が少ないように感じた。もっと活動者同士の交流が必要だと思う。

地区での支えあい訪問については、民生委員と保健活動推進員、ボランティアの人と一緒にしている。いざ大震災となったら、皆さん命が大事だと思うので、助けてもらいたい人には手をあげてもらうように啓発していくことが必要だと思う。

事例から考える仕組みづくりということで、ピープル日下、包括、ケアマネ、自治会、団体、区社協及び区役所と一緒に、徘徊で困る個別ケースについて真剣に討議している。このように地域で一体になって取り組んでいくべき。親の面倒を見るために 50 代で仕事を辞める人が地域にはいることを、みんなで知っておく時代になった。

ラジオ体操はとても良い。イベントや特別の行事の時だけでなく、定例会や会議の前とか、気軽に出来ることから楽しく進めていきたい。

藤田会長

コラボレーションフォーラムなど時間が許す限り、積極的に顔を出すようにしていくことが重要化も知れない。地域活動については、難しく考えるのではなく、素直にやっていけばよい。お互いに、見聞きし、話し合ったりしていくことが大切。

穂永氏

この協働推進協議会や、ウォーキング連絡会などで、早い段階から協議してもらえれば、ひまわりウォークについても、より良い連携ができるのではないかと協議会の中で話している。

大友委員

ハマロードサポーターで、27 年度「住みよい区」をどうしたら良いか話が出た。

環境事業推進委員は高齢者ばかりだが、子どもたちの登下校の見守りや地域清掃を推進している。清水橋付近では、警察がパトロールをしているので、安全対策を相談している。現状が良くなくても、やれることからやっていきたい。

防災は「待ったなし」である。今すぐにでも対応しなくてはならない。若い人にも防災などの活動について、地域として具体的な提案をしていきたい。また、たとえば「いつとき避難場所」は、何のために必要なのかをコンビニなどの事業者にも理解してもらい、事業に支障を来さない範囲で協力してもらえるような調整を行政にもお願いしたい。

金剛氏

保健活動推進員は、区内で広範囲に活動しているが、地域によってその理解に温度差があると感じ

ている。子育て支援、仲間づくりなどは積極的に行っており、健康づくりやウォーキング、ロコモ対策なども継続してやってきたい。民生委員ほど知られていないので、各団体の皆さまにもPRなど応援をお願いしたい。

藤田会長

今日は皆さんから今後の協議会のヒントなるお話をいくつかうかがえた。それぞれの団体の活動をみんなで共有し、それぞれの活動の幅を広げていくこともこの協議会の目的の一つである。また、防災やこども、高齢者の見守り、健康づくりなどで具体的な連携を深め、いざという時の地域での協力体制を作っていくことが大切。それに向けて取り組んでいきたい。

西田副区長

区の独自予算については、区民の皆様と一体となってよりよいまちづくりのため使っていただきたいと考えている。皆様のお話は、地域をよくしていこうという素晴らしいことばかりなので、区としても、一緒になって、知恵を出し、相乗効果をどう出すか、地域に役立つよう努力していきたい。